

## なからぎ

197号

2012年1月

## 「書香」のゆくえ

学長 渡 辺 信一郎

情報技術が発達し、タブレットやスマートフォンなど、電子媒体の画面で本が読めるようになった。4世紀初頭を分水嶺として、中国では書写材料が竹簡・木牘から紙に変化した。いまやそれ以来の、巨大な転換期にさしかかっている。電子媒体になっても、本を読むという行為自体は継続するにちがいない。しかし、紙媒体の書籍がもっている独自の楽しさがなくなるのは寂しい。行間を読むことは依然可能であっても、眼光紙背に徹する読み方はなくなる。紙媒体の本を読む、我流の楽しみ方を二三書き残しておきたい。

第一は、本の香り。これは香りを聞く楽しさと言ったほうがよい。とくに新刊書を開いたときのインクと紙のツンとくる匂いは、気分をいやましに高揚させる。線装本のばあい、墨と紙とカビとホコリの混淆した香りも独特で、書籍ごとに味わいが異なる。中国では読書人の家を「書香」の家という。本が充満すると、ゆたかな匂いもただようので、文字どおり「書香」の家となる。ただ家族からは鼻つまみにされる。

第二は、葉（頁）間を読む楽しさ。これは、井上ひさしもどこかで書いていた。とりわけ古書にはこの楽しさがつきものである。頁と頁との間には葉だけでなく、様ざまな置き土産がある。はがき・手紙、入場券、時刻表の切りとり頁、広告、請求書、領収書、オーダーメイドの寸法書き、イチョウの葉、紙魚の死骸、石灰の粉、……。葉間の遺物は、以前の所有者を特定するてがかりになる。科学出版社版『水経注疏』の旧蔵者を特定したときは格別だった。決め手は、この本の輪読分担を書いたメモ書きと音楽会の入場券であった。中国古代史研究の大家たちの、戦後間もないころの、若き日の研鑽の跡がしのばれる。テキストを共有できることがうれしい。

第三は、裏を読む楽しさ。線装本とくに写本の場合は、袋綴じになった紙の裏に何が隠されているか、眼光を紙背にまで徹する必要がある。書籍を借りたお礼や返却要求の手紙が出てくるだけではない。30年ほど前、御前・下立売にあった古書肆で一括りのボロを買った。その中に仮綴じになった日記があった。薄葉紙の裏に墨跡が見えたので、日記を解体して裏返し、丁合を調整すると、池田正直『戴曼公先生治痘用法』・同『曼公先生唇舌口訣』下巻の二冊の痘科の写本がよみがえった。よく見ると江戸後期の京都の医家佐井友則が頭注・手校を施した稿本で、天下の孤本である。価値がわからない子孫は、孤本をつぶして日記帳にする。私が築いてきた「書香」の世界もあやうい。

まだあるが、これ以上続けると、いつまじめに本を読むのかと、疑問の声が出かねない。振り出しに戻そう。15世紀半ばの活版印刷術の発明と結びついた紙媒体の出版文化は、いまや正念場にある。新聞も紙媒体以外に電子版を出し始めた。出版文化と密接に関連して展開してきた近代の大学制度もまた根本的な変革を迫られている（吉見俊哉『大学とは何か』2011年7月）。大学図書館も電子化と学術情報流通の変化に即応した教育機能の新展開を求められている（文科省科学技術・学術審議会「大学図書館の整備について（審議のまとめ）」2010年12月）。「書香」のゆくえはさておき、情報資源の活用は真剣に考えるべき課題である。電子化に即した情報資源を読む楽しさも、そのなかからまた自ずと生れてくるであろう。

---

御紹介の「大学とは何か」岩波書店 2011.7刊（請求番号 377 || Y）は、2階閲覧室入口に配架していますので、御利用ください。

また、御紹介の「水経注疏」については、参考として「水経注（抄）」（『中国古典文学大系21』所載 928 || C || 21）があり、解説も併せて参考にしてください。

## 自 炊 生 活

図書館運営委員 佐 伯 徹

世間では自炊がはやっているそうです。

昨年 iPad が発売され、長年の Mac ユーザーであり新しいもの好きの私も早速購入しました。iPad の持ついろいろな可能性の中でも、特に新聞では電子書籍リーダーとしての側面が注目され、去年は「電子書籍元年」などとも騒がれました。私もずいぶん期待したものです。

私は本を捨てたことがなく、買った本は全部保管しています。たまに、読んだことがある本を読んだことを忘れて買ってしまい、読んでいるうちに「読んだことがある！」と気付いてしまうことがあります。そのようなときでも二冊ともとってあります。

さほど読むのが速い訳でもなく、購入するのはせいぜい月に数冊というペースだと思のですが、本というのはいつの間にか増えるものです。気付いたら本によって居住スペースが大幅に圧迫されていました。それだけの数の本を本棚に整然と並べる訳にも行かず、プラスチックの引き出し式の収納ケースに詰め込んだり、古いものは段ボールに詰めてさらにその段ボールを積み重ねて、大部分の本は死蔵された状態です。昔読んでおもしろかった本を思い出してまた読みたいと思っても、この死蔵本の山から探し出すのはほぼ不可能です。

いよいよこの問題に本気で向き合わなければいけなくなった頃に iPad が発売され、メディアは「電子書籍元年」と騒いでいる、「これからは電子書籍を買って iPad で読めば問題は解決だな」などと期待してしまうのも無理からぬことでしょう。

私のこの期待は、しかし今のところ、裏切

られたままです。印刷されたものにくらべて電子書籍は品揃えが薄いうえに、多くの電子書籍は iPad では読めないフォーマットになっています。モバイル端末対応を謳っている電子書籍販売サイトもあるのですが、コミックやライトノベル中心であったり、読みたいものがあってもがちがちの著作権保護システムで締めつけられており、とても買う気がおきません。どうやら出版業界の人たちは、本当のところ電子書籍は売れて欲しくなさそうです。そもそも私の問題に立ち返ってみれば、今後買う本を電子書籍にしたからといって、いま圧迫されている居住スペースが広がる訳でもないし、死蔵本を読めるようになることもないのでした。

そこで自炊です。私も流行に乗ってみることにしました。

まず帯とカバーを外し、表紙をそろそろと引っ張ってはがし、本体はカッターナイフを使って50枚ずつに切り離し、背中の糊のついた部分を裁断機（ディスクカッター）で数ミリメートル切り取ります。こうしてばらばらにした本体、帯、カバー、それに表紙を、ドキュメントスキャナでスキャンして PDF ファイルにすれば、電子書籍の自炊完了です。さらに Acrobat で OCR 文字認識させれば数十 MB のファイルを十数 MB まで圧縮することもできるのですが、そういう技術的な話はこの際置いておきましょう。自炊を始めて1年半程度でおよそ400冊をスキャンして電子書籍化しました。これだけがんばっても段ボールの山が減った感じがしないのが恐ろしいのですが、もう何年も死蔵されっぱなしだった本の一部が、電子書籍化したおかげで

読めるようになっていきます。中にはシリーズの一部だけが電子書籍化され、残りはまだ山のどこかに埋まっているというものもあります。たゆまず自炊を続けていけばこれらもいつかは完全版になることでしょう。

こうして自炊した電子書籍はもっぱら通勤のときに活躍します。ときどき満員電車で新聞を読む猛者に出会うこともあります。私は気兼ねしてしまって文庫本ですら開くのを遠慮してしまいます。そういう状況でも、iPhone で自炊した電子書籍を読めばあまり場所を取らず重宝します。iPhone のサイズでは字が小さすぎて眼鏡（近視用の）を外さないと読みにくいのが難点なので、座れるときは iPad をかばんから引っ張り出して、大きな画面で読むこともあります。このように本を自炊することによって、保管場所が（今のところわずかばかりながら）縮小され、携帯性が増し、コレクションの保管が楽になりました。ただ、手に持ってばらばらめくれる紙の本の一覧性には、電子書籍は今のところかないません。

私はもともと装丁やレイアウトなど意識しない質で、題名すらうろ覚えです。しかし自炊するときには、本体だけではなく帯やカバーや表紙まで余さずスキャンします。そしてそれぞれのパーツのデータを一つの PDF ファイルにまとめて、題名をファイル名として入力します。この過程で、今まで意識していなかった題名を再認識したり、丁寧に作られている工業製品であることに感銘を受けたり、装丁をじっくり眺めたりするようになりました。

このように隅々まで余さずスキャンして「製品」としての本の全体を意識するようになったのは、自炊したあとの本を捨てているからです。「私は本を捨てたことがなく」と上に書いたのは事実ではなく、「自炊を始め

るまでは」が抜けていました。ばらしてスキャンした本を捨てるかどうかは自分が決めることなので、これは自炊生活を送っている人すべてに共通する訳ではないと思いますが、そもそも本によって居住スペースが圧迫されている問題を解決するために始めた自炊ですから、本を捨てなければ問題解決にはならないのです。

自炊を決意して、初めて本の表紙を本体から引きはがしているとき、なにか取り返しのつかないことをしているような気がしました。せめてもの気休めに、スキャンした本はきれいにそろえてカバーと帯も元通りにかかけます。できれば捨てたくないのですが、電子書籍化が成功したことを確認した後で、悲壮な決意で、ばさっと、ゴミ袋に捨てています。そのゴミ袋を収集日の朝に収集場所に出し、夜帰宅したときにゴミ袋が収集されてなくなっているのを見ると、心に穴が空いたような気がします。これはだいたい自炊経験を積んだ今でも変わりません。

本をスキャンして電子書籍化することをだれが「自炊」と呼び始めたのか知りませんが、自分でこつこつ作業して自分で楽しむという感覚は、料理の自炊と同じです。違うのは、少なくとも私の場合、料理の自炊ではそれなりの満足感（少なくとも満腹感）は得られるのに対して、本の自炊では喪失感が大きいことでしょうか。現状はまだまだ家の中を段ボールが占拠しており、自炊は続けなければいけないようです。将来は自炊しなくても電子書籍を楽しめるようになればいいなあ、と思いますが、ネットのニュースなどで電子書籍についての状況を見る限り、望み薄です。どうやら私の自炊生活はこの先も続きそうです。

(さえき とおる

: 生命環境科学研究科准教授)



# 府大生の読書傾向

～ 2010・2011 ～

今年度の貸出はすごい。  
まず、冊数がすごい。

4 月以降ずっと昨年の貸出冊数を上回っています。それだけではありません。実は、2008 年度の史上最高の貸出冊数記録を日々更新中 (12 月 20 日現在 17,843 冊) なのです。12 月の後半に入り、今までの伸びが鈍ってきたのはちょっと気がかりですが……。

次に、タイトルにもびっくり。

例年、若者に人気のベストセラー小説が上位にずらっと並びます。確かに今年も多くは人気の小説です。

表 1 2011 年 4 ～ 11 月 貸出冊数 16,401 冊 (10,266 タイトル)

順位	タイトル
1	蒙求 上 (新釈漢文大系:58, 59)//[後晋・李昉原著]/早川光三郎著
2	神様のカルテ//夏川草介著
2	蒙求 下 (新釈漢文大系:58, 59)//[後晋・李昉原著]/早川光三郎著
4	クジラの彼//有川浩著
4	ラブ・ケミストリー//喜多喜久著
6	謎解きはディナーのあとで//東川篤哉著
7	プリンセス・トヨトミ//万城目学著
8	八日目の蟬//角田光代著
9	ガリレオの苦悩//東野圭吾著
9	植物図鑑//有川浩著
9	阪急電車//有川浩著
9	KAGEROU//齋藤智裕著
13	ペンギン・ハイウェイ//森見登美彦著
13	御伽草子 (日本古典文学大系:38)//市古貞次校注
15	はじめて出会う心理学 改訂版 (有斐閣アルマ:Interest)//長谷川寿一[ほか]著
16	独検合格単語+熟語1800 改訂版//在間進, 亀ヶ谷昌秀共著
17	バイバイ、ブラックバード (Postal novel)//伊坂幸太郎著
17	神様のカルテ 2//夏川草介著
19	勝手にふるえてろ//綿矢りさ著
19	天地明察//冲方丁著
21	鴨川ホルモー//万城目学著
21	京都自転車デイズ//ワークルーム編著
23	物理化学 第 5 版 下 (実験化学講座:2-3. 基礎編:2-3)//日本化学会編
23	支配のしくみ (日本の近世:3)//藤井譲治編
23	文明の衝突//サミュエル・ハンチントン著/鈴木主税訳
26	まほろ駅前多田便利軒//三浦しをん著
26	子どもが減って何が悪いか! (ちくま新書:511)//赤川学著
26	日本の英語教育 (岩波新書:新赤版 943)//山田雄一郎著
26	桐島、部活やめるってよ//朝井リョウ著
26	大学生のためのレポート・論文術 新版 (講談社現代新書:2021)//小笠原喜康著
26	月と蟹//道尾秀介著
26	内定率100%!先輩たちの「就活ノート」//加藤清紀著
26	バイオ実験超基本 Q&A:意外に知らない、いまさら聞けない 改訂版//大藤道衛著

順位	タイトル
26	食堂かたつむり (ポプラ文庫:お 5-1)//小川糸著
26	若様組まいる//島中恵著
26	下町ロケット//池井戸潤著
37	入門マクロ経済学 第 5 版//中谷巖著
37	eco 就職ブック:人と環境を大切に仕事を探している人のために//エコ就職研究会編著
39	別冊図書館戦争 1//有川浩著/徒花スクモイラスト
39	枕中記・李娃伝・鶯鶯伝他 (中国古典小説選:5. 唐代:2)//黒田真美子[訳]著
39	細胞生物学 (ブルーバックス:B-1672. カラー図解アメリカ版大学生物学の教科書:第 1 巻)//D・サダヴァ他著/石崎泰樹, 丸山敬監訳・翻訳
42	若者が「社会的弱者」に転落する (新書 y:074)//宮本みち子著
42	日本近世国家史の研究//高木昭作著
44	モルグ街の殺人事件 改版 (新潮文庫:ホ-1-2)//エドガー・ポー[著]/佐々木直次郎訳
45	中・近世山村の景観と構造//米家泰作著
46	中国と日本の説話 1 (説話論集:第13-14集)//説話と説話文学の会編
46	子どものトラウマ (講談社現代新書:1376)//西澤哲著
46	ホイットマン詩集:対訳 (岩波文庫:赤(32)-309-7. アメリカ詩人選:2)//ホイットマン[著]/木島始編
46	ディキンソン詩集:対訳 (岩波文庫:赤(32)-310-1. アメリカ詩人選:3)//ディキンソン[著]/亀井俊介編
46	おいしいハンバーガーのこわい話//エリック・シュローサー, チャールズ・ウィルソン著/宇丹貴代実訳
46	昆虫生理生態学//河野義明, 田付貞洋編
46	レイクサイド (文春文庫:[ひ-13-5])//東野圭吾著
46	若者はなぜ殺すのか:アキハバラ事件が語るもの (小学館101新書:015)//芹沢俊介著
46	告白//湊かなえ著
46	IQ84 (ichi-kew-hachi-yon): a novel book 1//村上春樹著
46	オー! ファーザー//伊坂幸太郎著
46	IQ84 (ichi-kew-hachi-yon): a novel book 3//村上春樹著
46	日本中世社会の形成と王権//上島亨著
46	公務員の仕事入門ブック 23 年度試験対応 (公務員試験受験ジャーナル特別企画:2)//
46	きことわ//朝吹真理子著
46	ノルウェイの森 上//村上春樹著
46	ノルウェイの森 下//村上春樹著

しかし、現在のトップは、新釈漢文大系の中の『蒙求』上。下巻も第 3 位です。何か理由がありそうだと思います、文学部の学生さんにたずねてみました。すると、その中の詩を学生が順番に解釈していくという授業があるとのことでした。

他にもリストには、論文やレポートの書き方、対訳用に活用されているのか英米文学の詩集や短編小説、自然科学、社会科学、人文科学など、あらゆる分野のタイトルが並んでいます。毎日の学習や研究やちょっと気分転換したい時も、図書館の本を利用してもらっているんだなと思います。

そして、今年新たに気付いたことは、就職や職業に関する図書が目立つということ。今年度から始まったキャリア育成プログラムや就職活動の厳しい世相が関係しているのはもちろんですが、2008 年夏から設置した『職業・資格コーナー』が、学生さんの間に定着してきたことも一つの要因だと思います。

最近、カウンター前の新着図書コーナーや、『なからぎ』（図書館報）に先生方が紹介された図書を並べているコーナーをチェックしている学生さんの姿をよく目にします。新着図書コーナーの一角は、その時々で気になるテーマを選んで、関連図書を紹介しています。

利用者みなさんにとって、いつも何かしら出会いのある図書館であればいいなと思っています。

**表 2 2010 年度** 総貸出冊数 22,200 冊 (12,778 タイトル)  
※ 4～11 月 15,356 冊 (9,767 タイトル)

順位	タイトル
1	告白//湊かなえ著
2	阪急電車//有川浩著
3	植物図鑑//有川浩著
4	宵山万華鏡//森見登美彦著
4	あるキング//伊坂幸太郎著
6	新参者//東野圭吾著
7	終末のフール//伊坂幸太郎著
7	IQ84 (ichi-kew-hachi-yon): a novel book 1//村上春樹著
7	ノルウェイの森 上//村上春樹著
10	IQ84 (ichi-kew-hachi-yon): a novel book 2//村上春樹著
10	贖罪 (ミステリ・フロンティア:55)//湊かなえ著
10	IQ84 (ichi-kew-hachi-yon): a novel book 3//村上春樹著
13	神様のカルテ//夏川草介著
14	恋文の技術//森見登美彦著
14	小暮写真館//宮部みゆき著
16	近世日本と東アジア//荒野泰典著
17	図書館戦争//有川浩著/徒花スクモイラスト
17	少女 (ハヤカワ・ミステリワールド)//湊かなえ著
17	SOS の猿//伊坂幸太郎著
20	夜行観覧車//湊かなえ著
20	ノルウェイの森 下//村上春樹著
22	グレート・ギャツビー 愛蔵版[正]//スコット・フィッツジェラルド著/村上春樹訳
23	四畳半神話大系//森見登美彦著
24	神去なあな日常//三浦しをん著
25	アヒルと鴨のコインロッカー (創元推理文庫)//伊坂幸太郎著

順位	タイトル
26	図書館危機//有川浩著/徒花スクモイラスト
26	四十九日のレシピ//伊吹有喜著
28	日本古代王権の構造と展開//佐藤長門著
29	有頂天家族//森見登美彦著
29	ゴールデンランバー//伊坂幸太郎著
29	オーデュボンへの祈り (新潮文庫:い-69-1)//伊坂幸太郎著
29	ブラザー・サン シスター・ムーン//恩田陸著
29	怖い絵 [1]//中野京子著
29	美女と竹林//森見登美彦著
29	バイバイ、ブラックバード (Postal novel)//伊坂幸太郎著
29	往復書簡//湊かなえ著
37	ジャック・ローラー:ある非行少年自身の物語//クリフォード R. ショウ著/玉井真理子, 池田寛訳
38	「新釈」走れメロス:他四篇//森見登美彦著
38	怖い絵 2//中野京子著
38	クジラの彼//有川浩著
38	オー!ファーザー//伊坂幸太郎著
38	勝手にふるえてろ//綿矢りさ著
43	グラスホッパー//伊坂幸太郎著
43	図書館内乱//有川浩著/徒花スクモイラスト
45	吉利支丹文学集 2 (東洋文庫:567, 570)//新村出, 終源一校註
45	プリンセス・トヨトミ//万城目学著
47	レポート・論文の書き方入門 第 3 版//河野哲也著
48	大学生なら知っておきたい物理の基本 力学編//為近和彦著

表 1、2 とも ※順位欄が黒に白文字は、学生希望図書。(注意:学生希望図書としてリクエストされたものでも、図書館費で購入したり、寄贈を受けたものは、このリストでは学生希望図書になっていません)  
※順位欄がグレーに黒文字は、職業・資格コーナーの図書

## 資料紹介

これまで 2 F 書庫には雑誌、新聞原紙、ビデオが置かれていましたが、12 月から新たに図書も配架しました。

研究室から移管された図書群で、その中の『The Loeb classical library』(1)2 F 書庫 089 Ⅱ L Ⅱ 巻次と『Cambridge texts in the history of political thought』(2)2 F 書庫 311.23 Ⅱ C Ⅱ 巻次は今後も継続収集していきます。

- (1) アメリカの銀行家で社会事業にも貢献した James Loeb (1867 ~ 1933) の資金によって発刊された西洋古典の対訳叢書。(名著大事典 第 6 巻 平凡社 1 F 書庫 080 Ⅱ S Ⅱ 6 より) オリジナル (赤のカバーはラテン語、緑はギリシャ語文献) と英語訳の対照になっていて、現在はハーヴァード大学出版会から刊行されています。
- (2) 『世界の名著』(開架 080 Ⅱ S Ⅱ 巻次) で読んだ「統治論」/ジョン・ロック著や「ユートピア」/トマス・モア著等の原文に挑戦してみませんか。

## 卒業及び修了生の返却期限について

3 月に卒業及び修了される学生 (研究生・科目履修生を含む) の方への貸出は、図書の返却をよりスムーズにさせていただくために、最終の返却期限を 2 月末とさせていただきます。

なお、内部進学などで来年度も本学に在籍される方は、カウンターでその旨申し出てください。ただしその場合の返却期限は入学式前日もしくは在籍生と同じになります。



### 開館時間等

9:00~ 21:00	9:00~ 17:00	休館
----------------	----------------	----

☆閉館時の図書の返却は、図書館西側 (喫煙コーナー付近) の返却ポストをご利用ください。

2012年2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29			

★2/3(金)~ 春休み長期貸出開始  
返却期限 在籍生 4/9(月)  
卒業生予定者 2/29(水)

★2/17(金)~  
春季休業のため17:00閉館

2012年3月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

★3/21(水)~30(金)  
蔵書整理のため、2階閲覧室休室。  
閲覧・貸出・複写・照会等の業務は休止。  
3階各室の利用は可能。